

AKIBA HOLDINGS

2025年 3 月期

第2四半期決算説明資料

2024年11月13日



1. トピックス・概況
2. 2025年3月期第2四半期決算
3. 2025年3月期業績予想の修正
4. セグメント別概況

5. 参考資料

AKIBAホールディングスグループ 会社説明

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況



売上高、営業・経常利益は2Qまでは計画通りに推移するものの、 下期の事業環境の軟調な見通しと特別損失計上を受け、通期業績予想を修正

売上高、営業利益・
経常利益は計画通りに推移

売上高及び営業・経常利益については、経済環境の不透明さや事業環境の変化がみられる中、グループ全体として第2四半期までは概ね計画通りに推移

債権の回収可能性見直しに
より特別損失を計上し、
通期業績予想を修正

第2四半期決算において、当社子会社が有する債権に関して回収可能性の見直しを行い、一部の債権に対して貸倒引当金繰入額150百万円を特別損失として計上
また、この特別損失の計上及び下期の軟調な業績見通しを反映した結果、通期業績予想の修正を実施

経済環境の変化に対応
する事業基盤の強化を継続

経済環境・社会環境の変化に伴う不透明感が続く中、将来の成長に備え、ビジネスモデルの適応を推進。また、安定した収益を確保するための事業基盤強化に加え、新規商材の投入やM&Aの推進、通信建設テック事業での新規分野進出を通じて収益力の強化を図る

2Qは不安定な事業環境の中、売上高及び営業・経常利益ともに計画どおりに推移 特別損失計上するものの、将来成長に向けた投資と事業基盤強化を継続

2025年3月期第2四半期においては、円安基調と政治情勢・経済環境の先行き不透明感から不安定な事業環境が継続しております。

このような環境の中、売上高については第2四半期までは堅調に推移し、事業基盤強化に向けた成長投資の実行により販管費が増加したこともあり、営業利益・経常利益については減益となったものの、概ね計画通りの進捗となっております。また、子会社が有する債権の回収可能性見直しを行い、一部の債権に対して貸倒引当金繰入額150百万円を特別損失として計上いたしました。

2025年3月期通期の業績予想については、下期の軟調な事業環境を反映するとともに、第2四半期の特別損失計上を踏まえて、通期業績予想を修正いたしました。

今期の業績予想の修正は行ったものの、グループ全体の継続的な成長を目指し、新規商材の投入、M&A等による成長事業への戦略投資、事業執行体制の整備等を推進することにより、事業基盤の強化を継続し、収益力の強化を図ってまいります。

	2024/3 2Q実績	2025/3 2Q実績	前期比	2025/3 業績予想 (修正後)	前期比
売上高	7,208	7,807	108.3%	16,600	104.7%
営業利益	422	132	31.3%	550	65.6%
経常利益	409	109	26.8%	500	60.4%
親会社株主に 帰属する中間純利益 又は中間純損失	249	△86	—	122	41.7%
一株当たり 中間純利益 又は中間純損失	27.12円	△9.43円		13.28円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2025年3月期第2四半期決算





メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット

株式会社リーバン

株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等

※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）

H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P Cテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他
(旅館ほか)

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

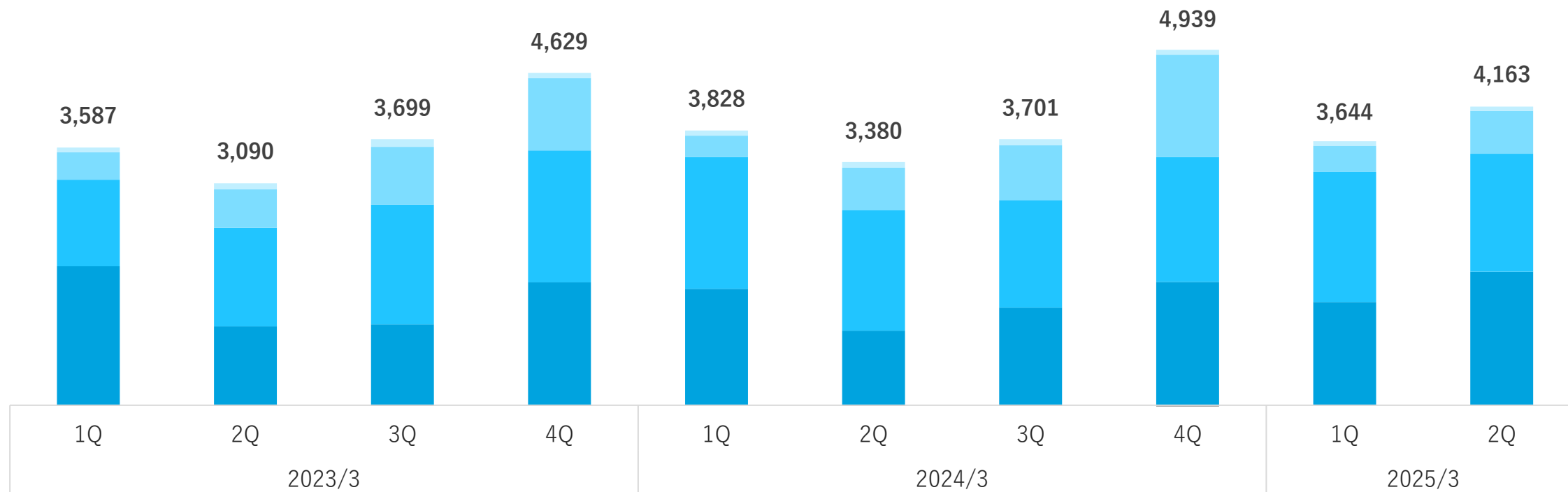
不安定な事業環境の中、全体としては概ね計画通りに推移 事業基盤強化による販管費投資や事業領域拡大は継続

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	トピックス
連結	7,807	108.3%	132	31.3%	
メモリ・PC関連 デバイス・IoT	3,300	123.9%	△93	—	大型案件獲得等により売上高伸長するも円安や原価の高騰により粗利水準低調
通信建設テック	3,424	97.5%	137	48.3%	新規連結寄与も、売上・利益ともに前期までの大型案件終了による影響で減収減益 新規領域は売上拡大に向け展開中
HPC (高性能科学技術計算機)	962	107.3%	61	63.8%	販促活動強化、短納期化を推進し、売上高は前期を上回ったものの、販管費増等の要因により営業利益は減益
その他 (旅館ほか)	119	88.8%	27	42.8%	台風・猛暑で客足伸びず売上高減少、コスト見直し進めるも営業利益も減益 (全社費用等の調整額を含む)

M&Aによる新規連結寄与とメモリ・PC関連デバイス領域を中心に売上高伸長

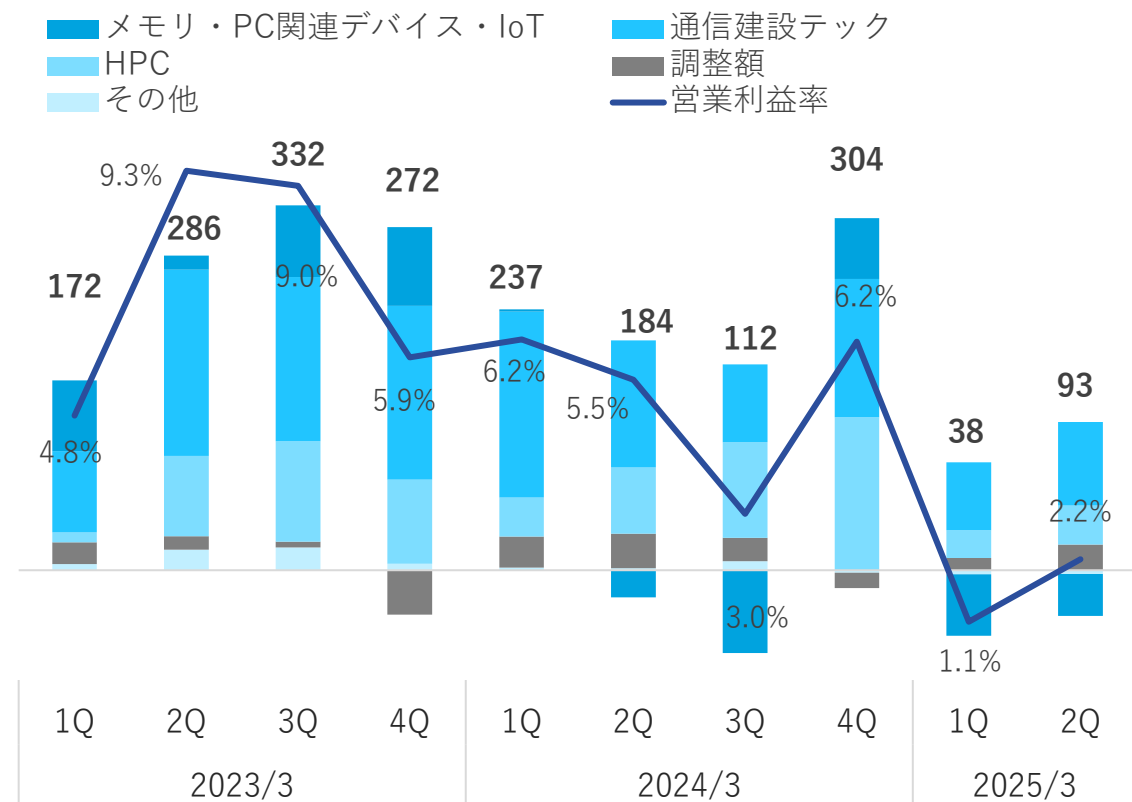
連結売上高

■ メモリ・PC関連デバイス・IoT ■ 通信建設テック ■ HPC ■ その他 ■ 調整額

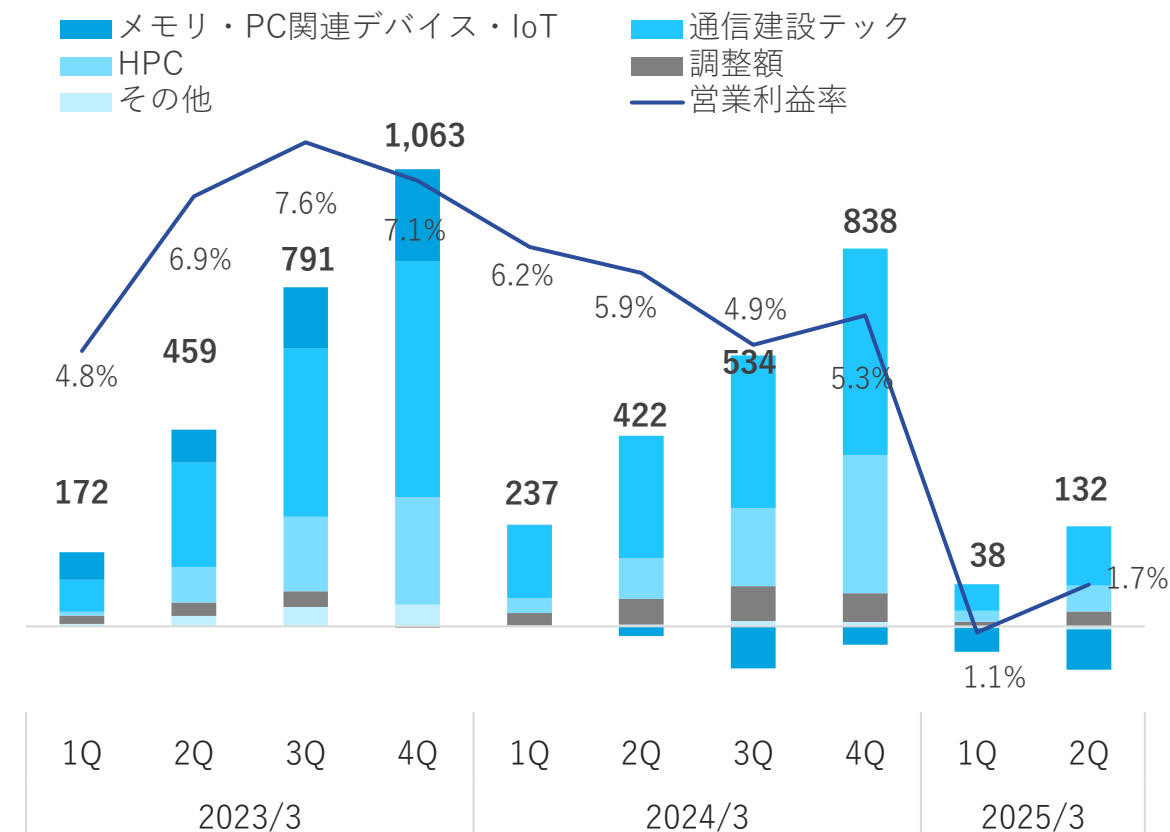


事業基盤強化に向けた人材確保及び設備投資等による 販管費の増加があるものの計画どおりに推移

連結営業利益 会計期間

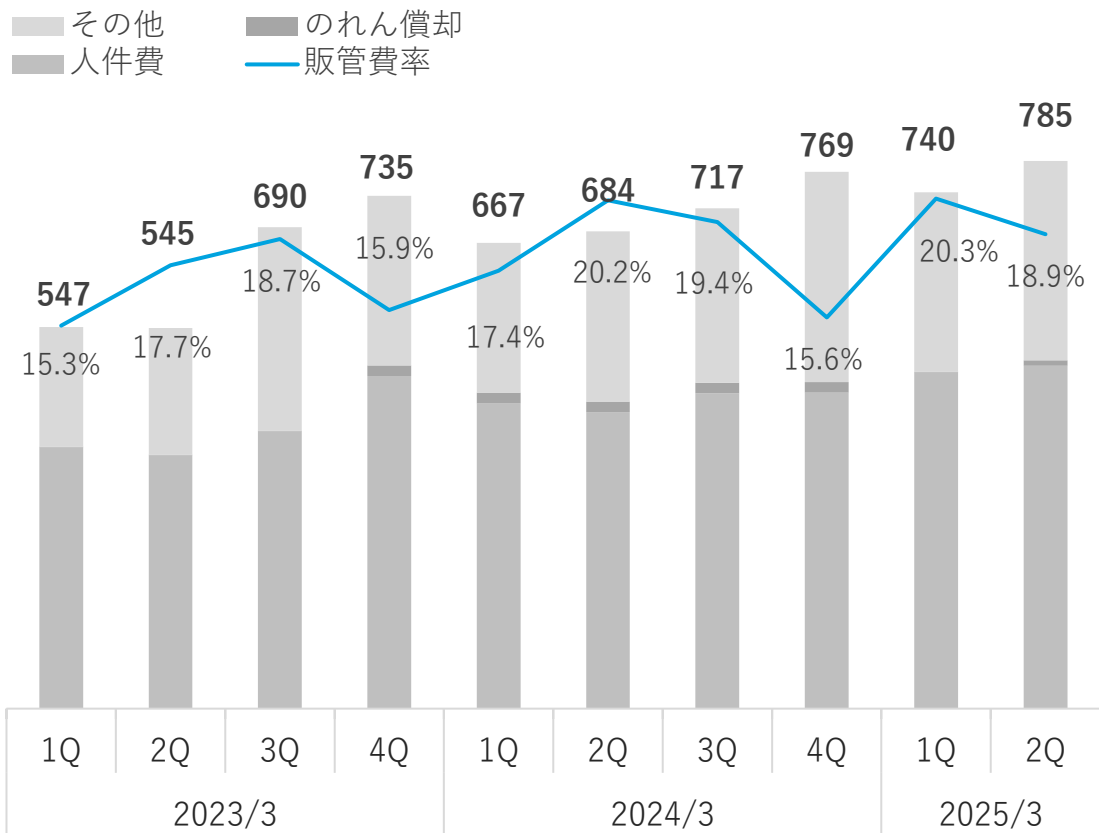


連結営業利益 累計期間

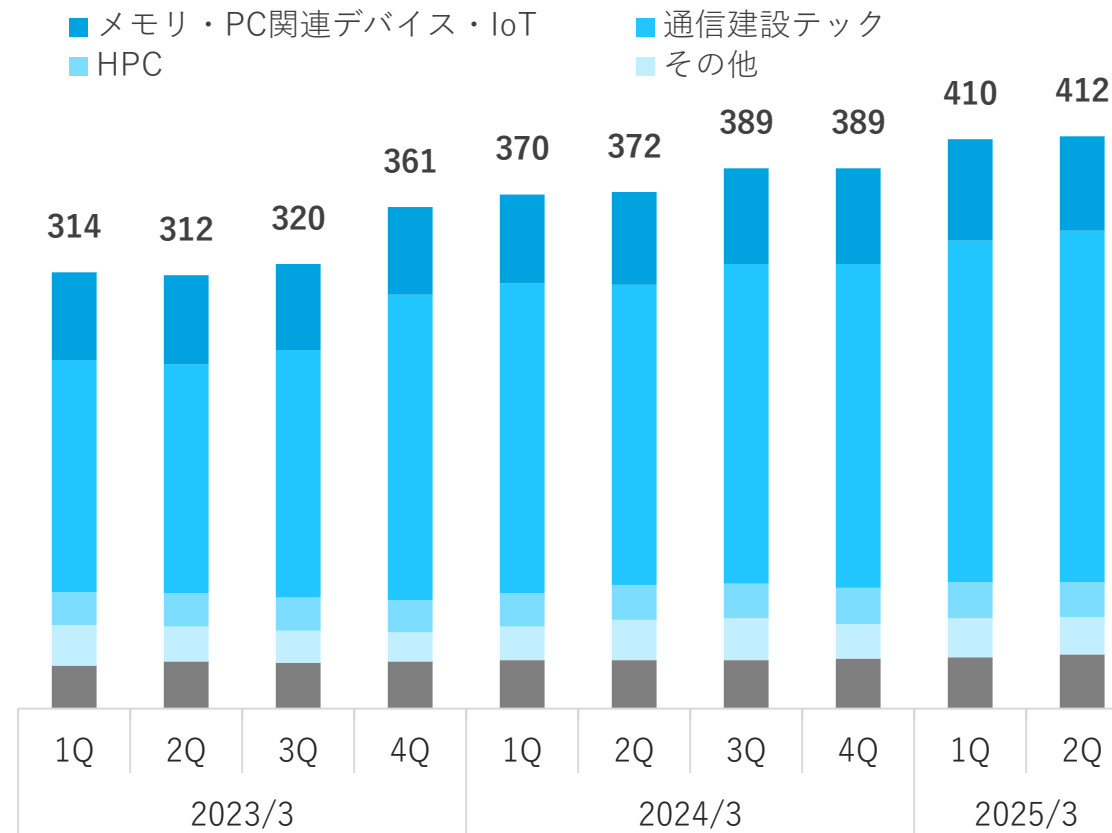


事業の成長力確保のため、人材の確保を促進

販売費及び一般管理費



役職員数 (人)



今後の運転資金及び投資資金確保のため借入金増加 B/S規模・全体の構成は前期末から大きな変化なし

- 運転資金及び成長のための事業投資資金を確保するため、有利子負債が前期末に比べ約10.8億円増加
- 商材の確保により、棚卸資産が増加
- 当期純損失の計上により、株主資本は減少

連結貸借対照表

	2024/3	2025/3 2Q	差異	前期末比
流動資産	10,749	11,009	+260	102.4%
現預金	4,168	4,753	+584	114.0%
売掛債権	4,691	3,872	△818	82.6%
棚卸資産	1,655	2,186	+531	132.1%
固定資産	719	858	+138	119.3%
資産合計	11,468	11,867	+399	103.5%
流動負債	6,313	6,306	△6	99.9%
短期借入金	3,450	3,850	+400	111.6%
一年以内返済予定 長期借入金	548	774	+225	141.1%
一年以内償還予定社債	58	50	△8	86.2%
買掛金	1,565	1,193	△372	76.2%
固定負債	1,359	1,838	+478	135.2%
長期借入金	1,190	1,653	+462	138.9%
負債合計	7,673	8,145	+472	106.2%
株主資本	3,419	3,332	△86	97.5%
資本金	100	100	—	100.0%
利益剰余金	2,537	2,451	△86	96.6%
負債・純資産合計	11,468	11,867	+399	103.5%

売上高については前期を上回る進捗、営業・経常利益も計画通りの推移 特別損失計上により2Q累計で当期純損失計上

- 売上高については、大型案件の獲得、新規連結子会社の寄与で前年同期を上回るものの、為替の影響及び原価の高騰等により売上総利益については減益
- 事業規模拡大のための人員確保のほか、事業基盤強化のための成長投資、新規連結子会社の影響等により販管費が増加
- 売上高、営業・経常利益については、期初見込んでいた計画通りに推移
- 子会社が有する債権の回収可能性見直しを行い、一部の債権に対して貸倒引当金繰入額150百万円を特別損失として計上

連結損益計算書

	2024/3 2Q	2025/3 2Q	差異	前期比
売上高	7,208	7,807	+599	108.3%
売上原価	5,434	6,150	+715	113.2%
売上総利益	1,774	1,657	△116	93.4%
販売費及び一般管理費	1,351	1,525	+173	112.8%
営業利益	422	132	△290	31.3%
営業外収益	2	10	+8	399.1%
営業外費用	15	33	+17	215.1%
経常利益	409	109	△299	26.8%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	—	150	+150	—
税金等調整前中間純利益 又は税金調整前中間純損失	409	△40	△449	—
法人税等合計	139	32	△106	23.3%
中間純利益又は中間純損失	270	△72	△343	—
非支配株主に帰属する中間純利益 又は非支配株主に帰属する中間純損失	21	14	△7	66.3%
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する中間純損失	249	△86	△335	—

03

2025年3月期業績予想の修正

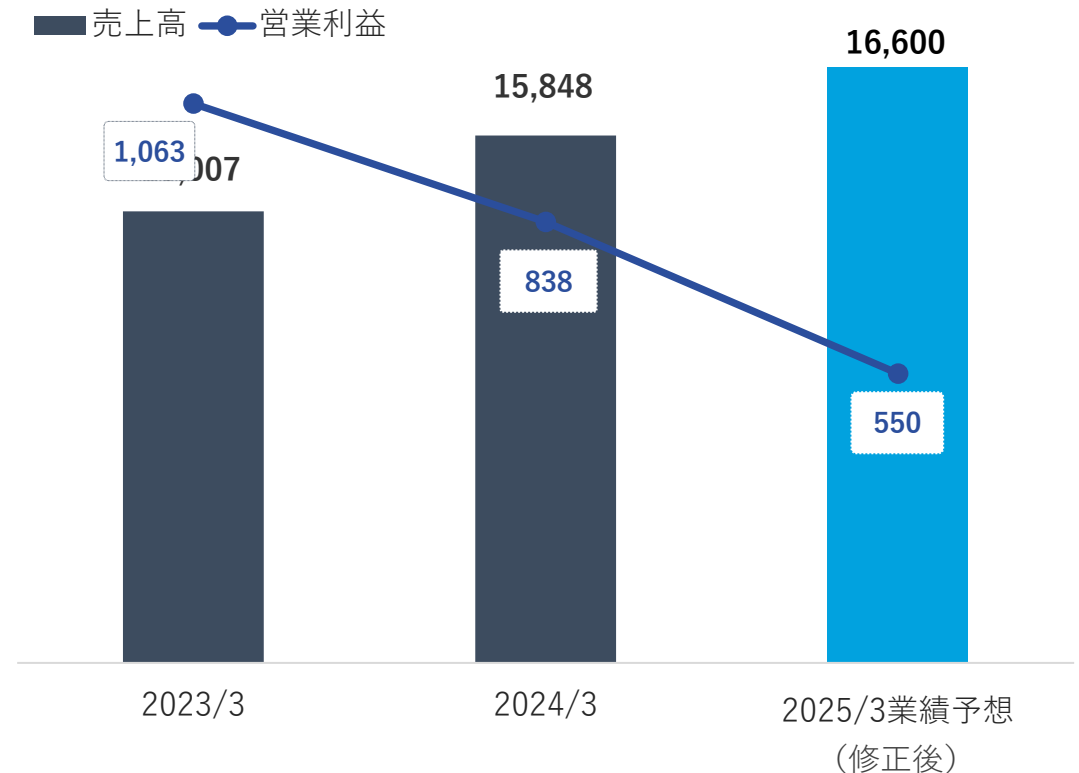


下期にかけての軟調な事業環境見通しを反映するとともに、第2四半期における特別損失の計上を踏まえ通期の連結業績予想を修正

通期連結業績予想の修正

	2025/3 業績予想 (修正前)	2025/3 業績予想 (修正後)	修正比	前期比 (修正後比)
売上高	17,500	16,600	96.0%	106.0%
営業利益	750	550	73.3%	65.6%
経常利益	750	510	66.7%	60.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	500	122	27.2%	41.7%

- 売上高は、新規案件の進捗見通しが期初の想定を下回るが、成長事業の拡大やM&Aによる新規連結寄与により、増収の見通しを維持
- 第2四半期に計上した特別損失の影響に加えて、円安継続、原価高騰の影響等による下期の軟調な見通しを反映
- M&A及び新規採用による人員増、社内管理体制の強化を推進等による販管費の拡大等の推進は継続する計画とし、各段階利益を減額



04-1

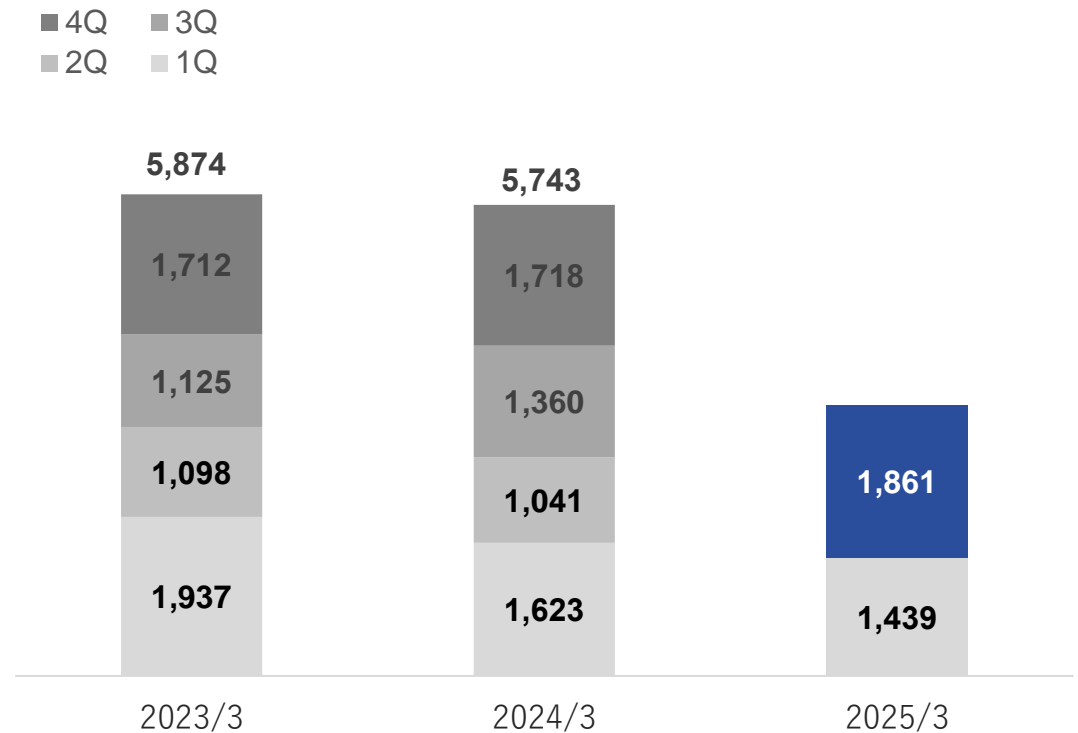
セグメント別概況 (メモリ・PC関連デバイス・IoT)



市場環境不安定な中、2Qは大型案件の受注で増収

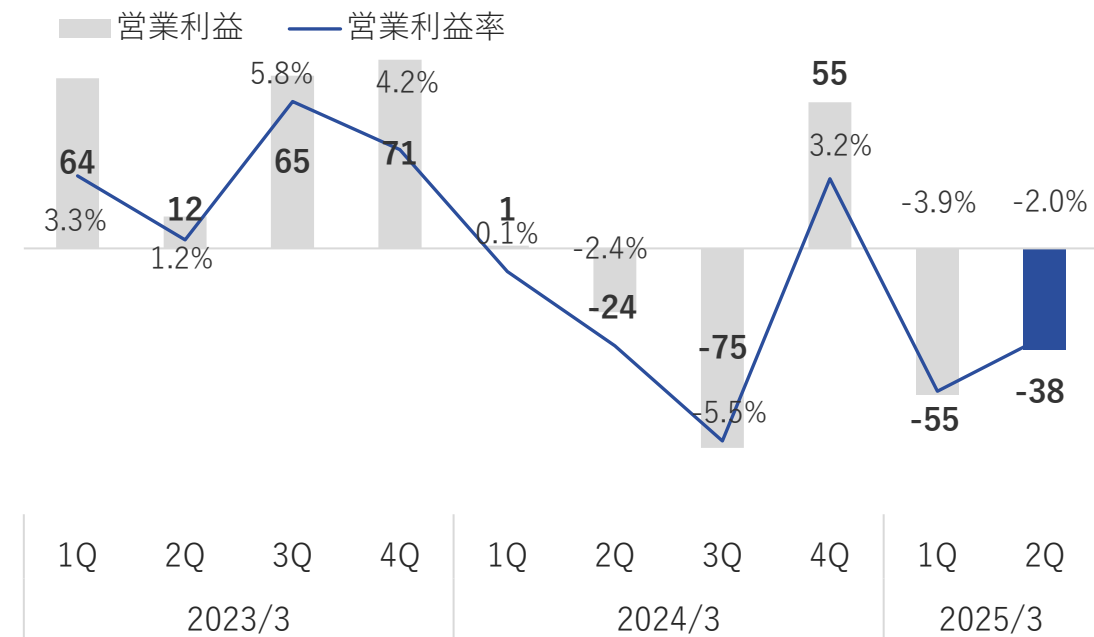
- Windows11への移行を控え、市場環境は低調な状況継続
- PCメーカー向けの部材販売回復や大型案件の獲得で第2四半期の売上高伸長の
- B2C向け商品の拡充、新規事業を更に推進し、販路の多様化及び利益の獲得構造の多様化を図る

売上高

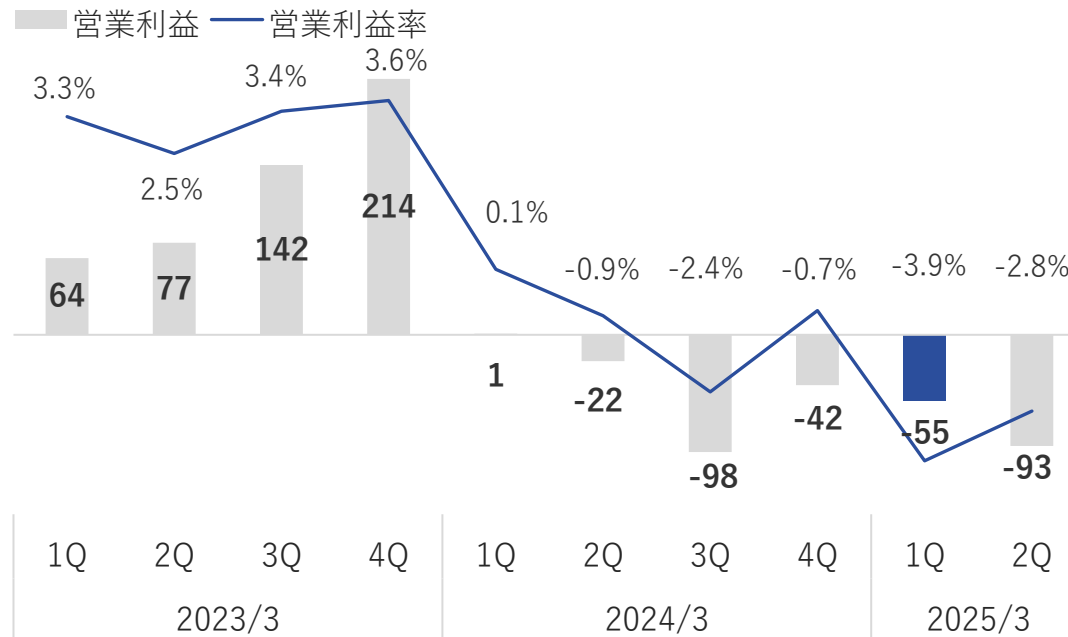


メモリ需要の低調と円安及び原価の高騰から厳しい環境が継続

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



■ PC需要の落ち着き及びメモリ価格の高騰、円安が継続している影響等により、売上総利益率の低下継続

■ コロナ禍に先行して調達した在庫の販売注力し、在庫水準改善

■ 新商材の販売拡大に向けた販売促進費増加等により減益

産業用/組込み用小型コンピュータ 新製品「N97シリーズ」を 2024年7月30日(火)発売

産業用/組込み用
小型コンピュータ
「N97シリーズ」

Intel第12世代プロセッサ「Alder Lake-N97、以下 (N97)」を搭載したコンパクト産業用

低価格帯に位置しながらもIntel第12世代プロセッサとして高い処理性能を誇り、優れたコストパフォーマンスを実現しています。廃熱ファンを搭載したコンパクト筐体の「NUC BOX-N97」、ファンレスでCOMポート(RS-232)を搭載した「iBOX-N97 R2」の2機種ラインナップ

主な想定利用
シーン

- ・ 産業用途向け制御
- ・ 装置組み込み向けPC
- ・ オートメーション など



「スマートロッカー（Smart Cabit）」 「ICタグキャビネット」 2機種を 2024年8月30日(金)より販売開始

スマートキャビット (Smart Cabit)

「3つの機能切り替えが可能なスマートキャビット（Smart Cabit）」

従来のセキュリティキャビネットから、より現場のニーズに即した機能を搭載、パーソナルロッカー、貸出ロッカー、預入・受け取りロッカーの機能を制御部単位で切り替えることでカスタマイズなしでも様々なシーンでの利用を可能としました。また、それぞれの機能で運用中に空きロッカーを利用して宅配荷物受け取りも併用可能といたしました。

※「Smart Cabit」は、株式会社ワイズコーポレーションの登録商標です。



ICタグキャビネット

タグを検知し「いつ」「誰が」「何を」持出、返却したか常時監視

キャビネット内の物品毎につけたUHF帯RF-IDタグを検知する仕組みとなっています。貸出・返却を自動認識することにより画面操作をすることなく、簡単に物品の貸出・返却ができます。庫内を自由に使うことができ、複数個の一括貸出・返却も可能です。

■ 社員証、学生証をICカードとして使える



■ 常に備品を監視



■ 簡単操作でセキュリティは万全

- 1 かざす
ICカードをかざしてください
- 2 取り出す
借りたい物品を取り出してください
- 3 貸出完了
物品が貸出されます



次世代のパワフル&カラフル [PD充電器] 登場！ USB4ケーブル同梱モデルも 2024年9月27日（金）同時発売

「APD-V150AC3シリーズ」

4ポート合計150W出力や単独140W出力対応ハイパワーPD3.1充電器

パステル調のブルー、パープル、そして人気のレッド、ブラック（スペースブラック）の4色のカラーバリエーションを展開し、150W出力対応のパワフルなPD充電器です。多彩なシーンで活躍する柔軟な出力パターンが特長です。



USB4規格対応の高品質ケーブルを付属

付属モデルには、PD3.1対応のUSB4規格に準拠した高品質ケーブルも付属しています。USB4接続時には最大40Gbpsの高速データ転送に対応し、240W/100Wなどの高出力充電を可能にするeMarkerチップも内蔵。また、強度に優れたナイロン編組とアルミボディを採用し、丈夫で信頼性の高いケーブル（1m）を提供いたします。

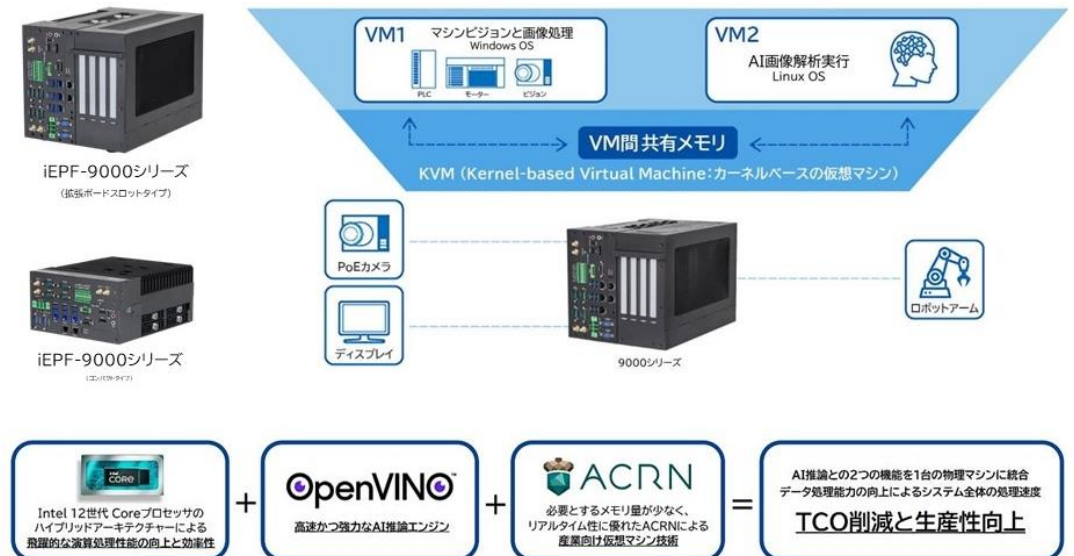


アドテックの産業用PC 次世代エッジAIoTプラットフォーム『9000シリーズ』がアップグレードして新登場

次世代エッジAIoTプラットフォーム『9000シリーズ』

高拡張性・AI画像解析処理に強みの次世代エッジAIoTプラットフォーム『9000シリーズ』にIntel 第12世代／第13世代Coreプロセッサを搭載した新モデルが登場

『9000シリーズ』は、豊富なI/Oを搭載し高い拡張性を誇るモデルです。そして従来モデルIntel 第11世代Coreプロセッサから、Intel 第12世代および第13世代のCoreプロセッサにアップグレードされた新モデルになります。



【飲食店の油革命！】業務用フライヤー後付けデバイス「揚げものGO」を フード業界の展示会に出展

業務用フライヤー後付け デバイス「揚げものGO」

未来の揚げ物体験の実演・実食

健康志向が高まる現代において、より多くの方々にご満足いただける製品として「揚げものGO」は開発されました。

「揚げものGO」は、油を細分化して熱伝達を向上させることができる技術を搭載した、揚げ物調理補助機です。

今お使いのフライヤーに後付けできる為、厨房設備を変更する事なく設置可能です。

この油の細分化技術により、食材本来の美味しさを最大限に引き出すと同時に、使用する油の量を大幅に削減することが可能となりました。

従来の揚げ物と比較しても、油の吸収を抑えたヘルシーな料理を提供できる点が大きな特長です。

飲食店や食品業界においても、その優れた性能が多くのの方々の健康と美味しさをサポートいたします。



「揚げものGO」展示会出展スケジュール

2024年7月24日(水)~25日(木)	FABEX 中部	ポートメッセなごや
2024年9月18日(水)~20日(金)	HCJ 大阪	インテックス大阪
2024年10月9日(水)~10日(木)	FOODSTYLE Japan 東京	東京ビックサイト
2024年10月16日(水)~18日(金)	FABEX 関西	インテックス大阪
2024年10月23日(火)~24日(水)	FOODSTYLE Chubu 愛知	Aichi Sky Expo
2024年11月6日(水)~8日(金)	フードメッセにいがた	朱鷺メッセ
----- 今後の展示会出展予定 -----		
2024年11月13日(水)~14日(木)	FOODSTYLE Kyusyu 福岡	マリンメッセ福岡
2025年1月22日(水)~23日(木)	FOODSTYLE Kansai 大阪	インテックス大阪
2025年2月4日(火)~7日(金)	HCJ 東京	東京ビックサイト
2025年3月11日(火)~14日(金)	FOODEX JAPAN 2025	東京ビックサイト

04-2

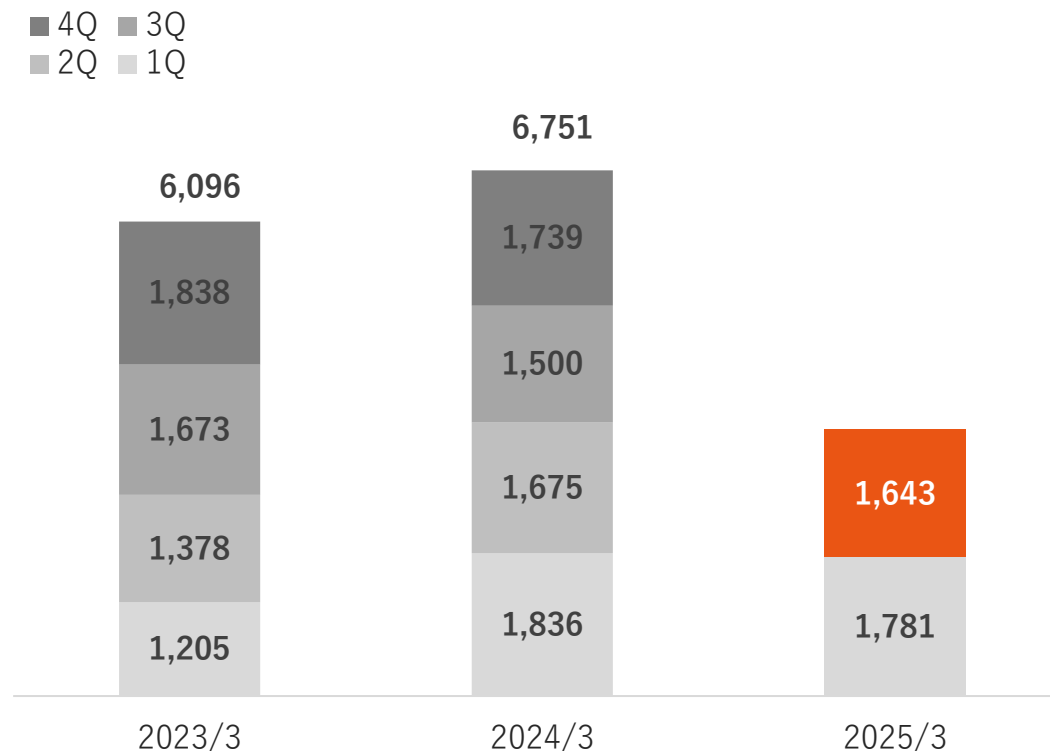
セグメント別概況 (通信建設テック)



大型案件が終了も、新規案件積み上げと新規連結子会社の寄与で前期同Q並みの売上高を確保

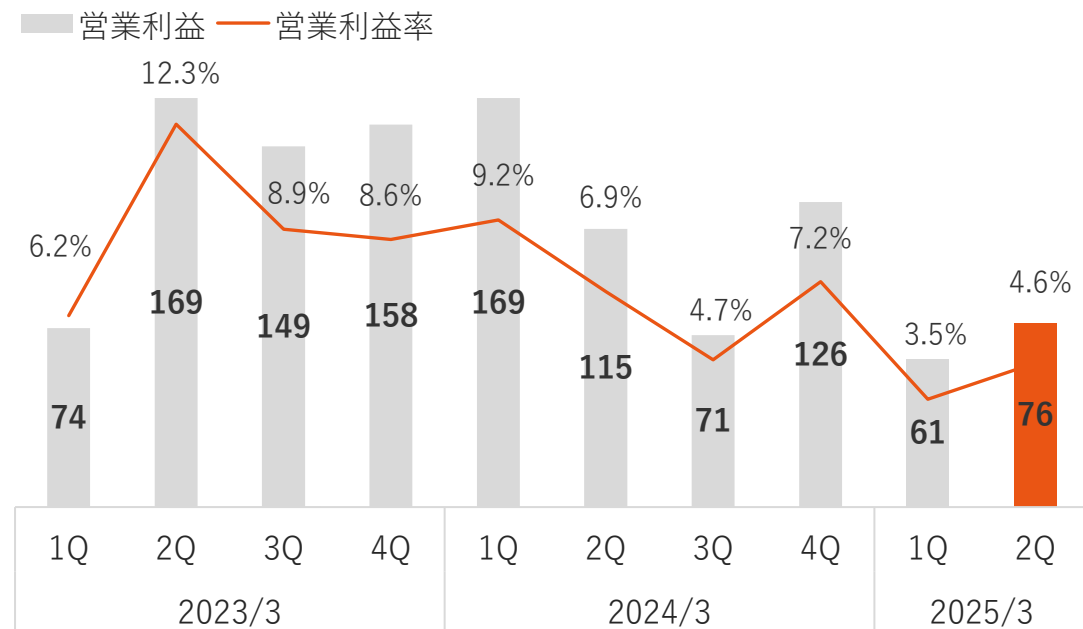
- キャリア3Gサービス終了に伴うマイグレーション工事が概ね終了したことにより売上が減少
- クラウドカメラ、サービスロボットなどの設置・保守関連等の新規領域の受注数増加
- 中部エリア強化に向けて株式取得したブランチテクノ社の連結開始に伴う売上高への寄与
- 既存事業の収益化及び新規案件の開拓を更に推進することで、継続的な成長を目指す

売上高

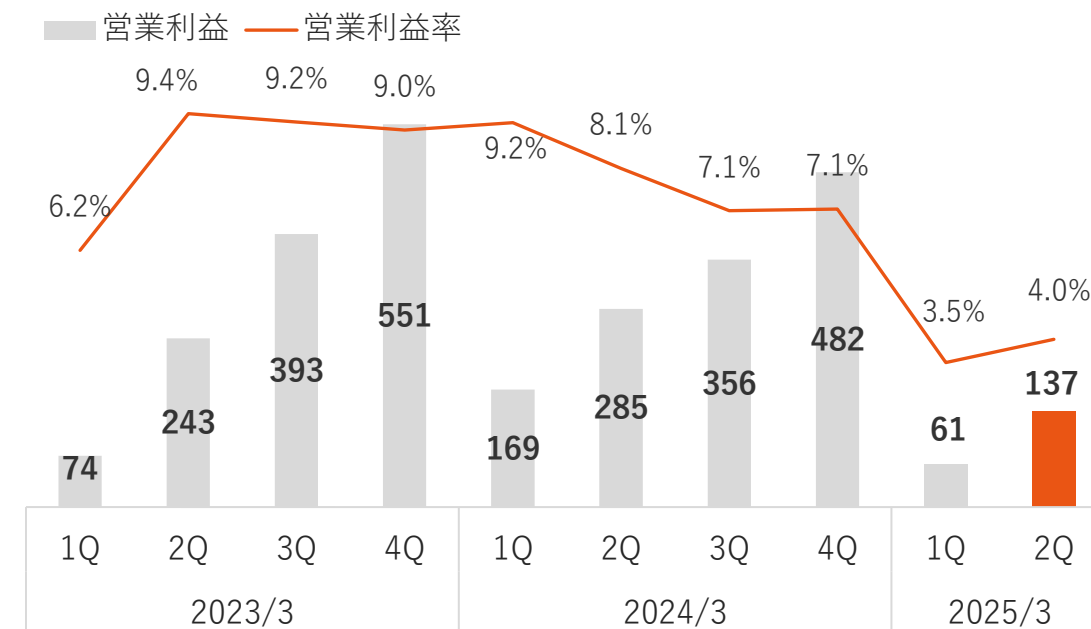


成長投資による販管費等の増加する中、堅調に利益確保

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- キャリア3Gサービス終了に伴う関連工事が概ね終了
- 前期までの案件の粗利水準との差異や新規領域の先行投資負担の中、堅調に利益確保
- バディネット社及びブランチテクノ社共同で名古屋事業所を開設し、両社の連携強化・東海エリアの営業力強化を図る
- 事業推進体制の拡充等により事業体制の強化を図るための投資を推進し、販管費等が増加

プレスリリース 2024.08.26

IoT、ロボット、EV関連業務拡大のため名古屋オフィスを新設



- 名古屋オフィス新設の目的 -

株式会社バディネットと、子会社である株式会社ブランチテクノは、従来の通信キャリアの屋内・屋外移動体基地局関連工事の体制強化に加え、IoT、ロボット、EV関連業務を中部地区にて拡大させるために名古屋オフィスを新設いたしました。直近では2021年12月の大阪オフィス移転、2023年3月の広島オフィス新設に続く、オフィス増床となります。

今後更に両社の強みを活かし、東海・中部エリアにおける、IoT、ロボット、EV関連業務の需要増加に対応してまいります。

- 名古屋オフィスについて -

- ・ 所在地 : 〒451-0045
愛知県名古屋市西区名駅3-10-17 IT名駅ビル2号館4F
- ・ 最寄り駅 : 名古屋駅徒歩5分、国際センター駅徒歩8分
- ・ 営業開始日 : 2024年8月26日(月)

プレスリリース

2024.09.06

M&A・事業承継支援プラットフォームBATONZにて 実名公募&対談記事を公開



左：バディネット 取締役Founder兼CBO 堀
右：バトンズ 代表取締役CEO 神瀬 様

バディネットの実名公募ページ

https://batonz.jp/buyer_interview/budynet/

バトンズとの対談記事ページ

<https://batonz.jp/learn/16863/>

M&Aの方針

買収対象領域	<ul style="list-style-type: none"> ・電気通信工事 ・電気工事
M&Aの目的	<ul style="list-style-type: none"> ・施工体制の強化 ・新規施工領域への事業拡大 ・技術力の向上と新技術の獲得
買収予算	～10億程度（あくまでも年間での想定）
希望エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・関西/九州/東北/北海道/北関東（電気通信工事） ※特に関西エリアの優先度が高い ・日本全国（電気工事）
買収までのスケジュール	トップ面談までの日数：1～2ヶ月 デューデリジェンスおよび評価：2ヶ月 契約交渉および締結：3ヶ月 統合作業および実行：100日程度
ロックアップ	ケースバイケースで相談
PRしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・上場企業の傘下で経営基盤が整っている ・最新技術領域における電気通信工事への積極的なチャレンジ ・新しい未来を創造する社会貢献性

企業情報

Buddy Net

株式会社バディネット

設立年 2012年2月

代表者 堤 誠治

従業員数 195名（役員を除く）

※ バディネット単体 2024年1月10日現在

本社 東京都中央区新富1-18-1 住友不動産京橋ビル3F

HP <https://www.buddynet.jp/company-profile>

事業概要 移動体通信工事（屋内携帯基地局/屋外携帯基地局）・WAN/LAN・ネットワークカメラ等の工事

最新プレスリリース 2024.09.25

アルコールチェック代行サービスで、サービス提携先を拡大中 より多くの検知器やシステムとの連動が可能に

契約期間・利用期間の縛り無し

1コール150円 / 完全従量課金

パディネットのアルコールチェック代行サービス

- 道路交通法改正に完全対応
- 初期費用 **0円**
- 24時間 365日対応
- クラウド連携対応
- 導入開始は2週間～

1分で入力完了

資料ダウンロード

サービス提携先は現在6つまで拡大。引き続きサービス連携先の拡大に向けて取り組み、「どんな検知器でも」「どんなシステムでも」ワンストップ・低コストでアルコールチェック代行が可能なサービスを提供していく。

- プレスリリース 2023.04.11 株式会社パイ・アールとサービス連携
- プレスリリース 2023.10.23 ナビピドットコム株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.8 トリプルアイズ株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.24 株式会社東計電算とサービス連携
- プレスリリース 2024.01.10 株式会社インフォセンスとサービス連携
- プレスリリース 2024.09.25 株式会社AloTクラウドとサービス連携

提携先企業一覧 (2024年11月現在)

プレスリリース 2024.11.01

コーポレートサイト全面リニューアル



▶ コーポレートサイトURL : <https://www.buddynet.jp/>

今後ますます高まる通信建設業界の需要にお応えしていくために、コーポレートサイトのデザインを一新し、お客様の課題を解決するソリューションページの新設、パディネットの想いや事業を紹介する動画の公開、自社と通信建設業界をオープンにしていくオウンドメディアの開設など、コンテンツの拡充を行いました。



04-3

セグメント別概況 (HPC事業)

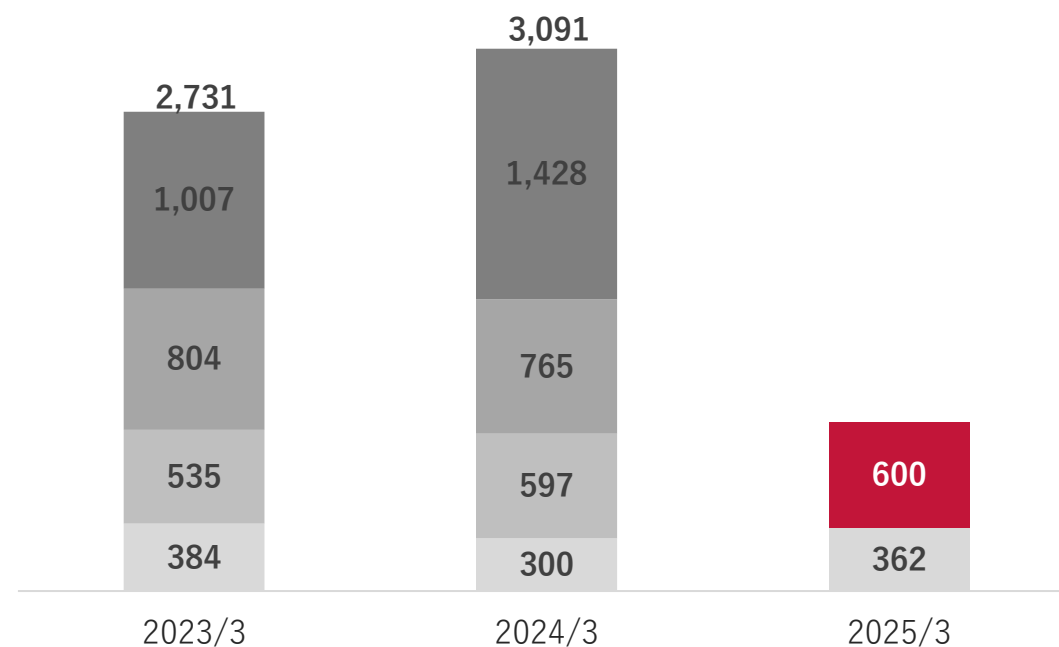


積極的な営業展開により堅調に売上高を確保

- 学会等への参加を推し進め、セミナーの開催や機器展示を行うほか、販促キャンペーンを実施し、顧客の取り込みに努める
- 購買と営業の連携による短納期化にも取り組むことで、売上高を確保

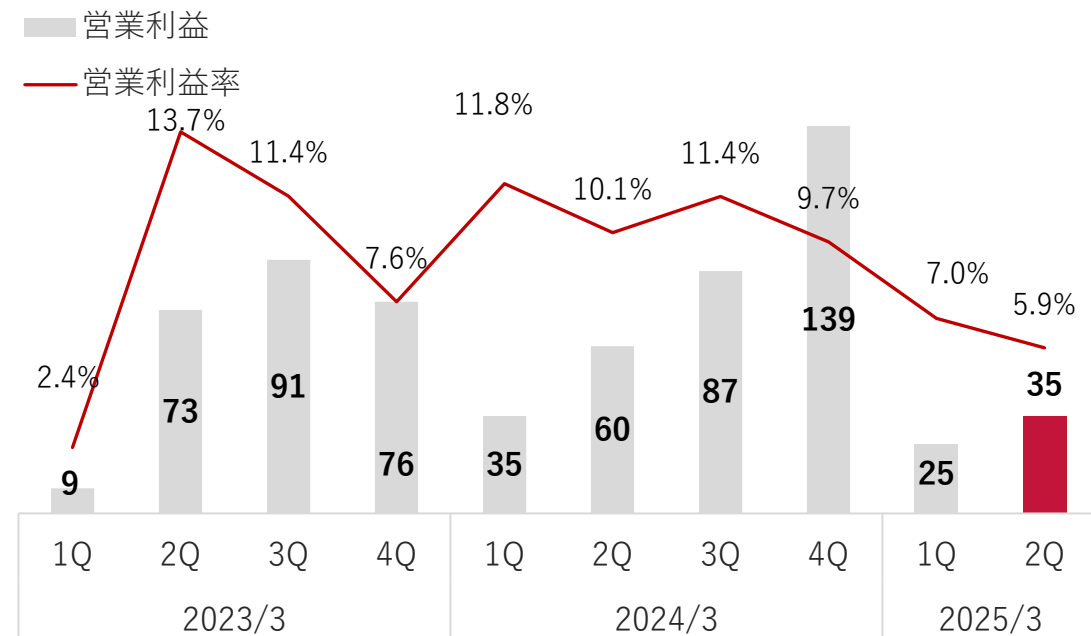
売上高

■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q

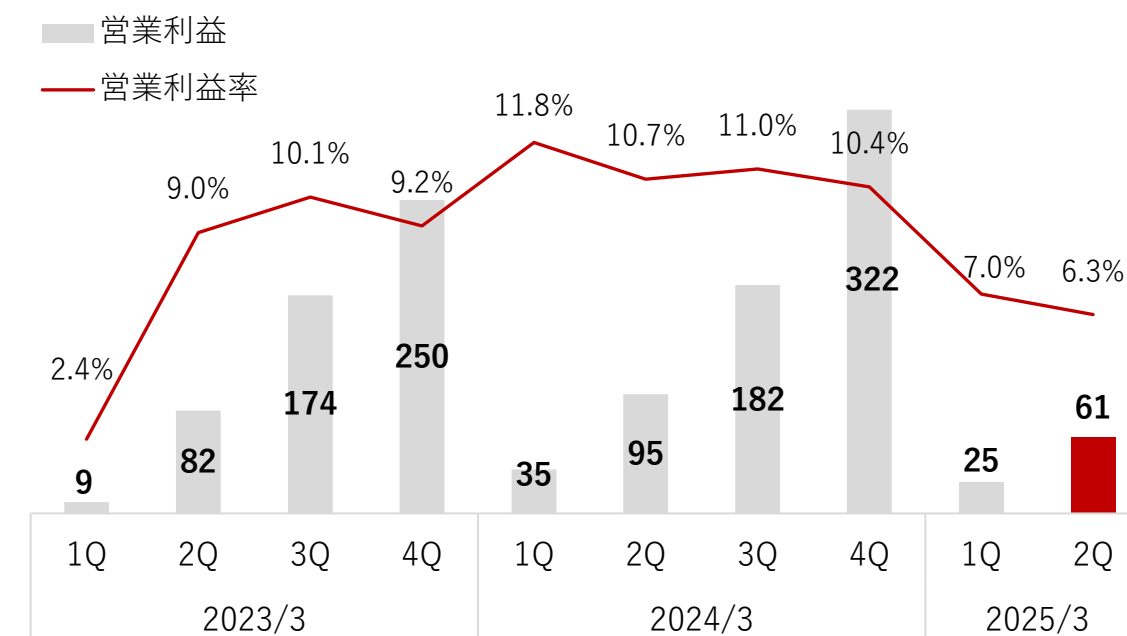


営業利益についても堅調に積み上げ

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 原価の高騰並びに円安の影響により、利益率の確保に関し懸念点は存在するものの、購買・入荷期間の短縮を進め納品までの短納期化を推進
- 学会参加による対面販売機会を確保しつつ、下期の売り上げ拡大に向けた販促活動展開を行い、さらなる案件受注を目指す

学会・展示会へ参加 積極的に対面営業を展開

学会・展示会への参加
【機器展示】

第43回日本医用画像工学会大会（JAMIT2024）

2024年8月実施

第27回 画像の認識・理解シンポジウム MIRU2024

2024年8月実施

JKC-FE14（第14回日韓強誘電体会議）

2024年8月実施

日本応用数理学会2024年度年会

2024年9月実施

第18回分子科学討論会2024

2024年9月実施

第34回 設計工学・システム部門講演会

2024年9月実施

日本流体力学会 年会2024

2024年9月実施

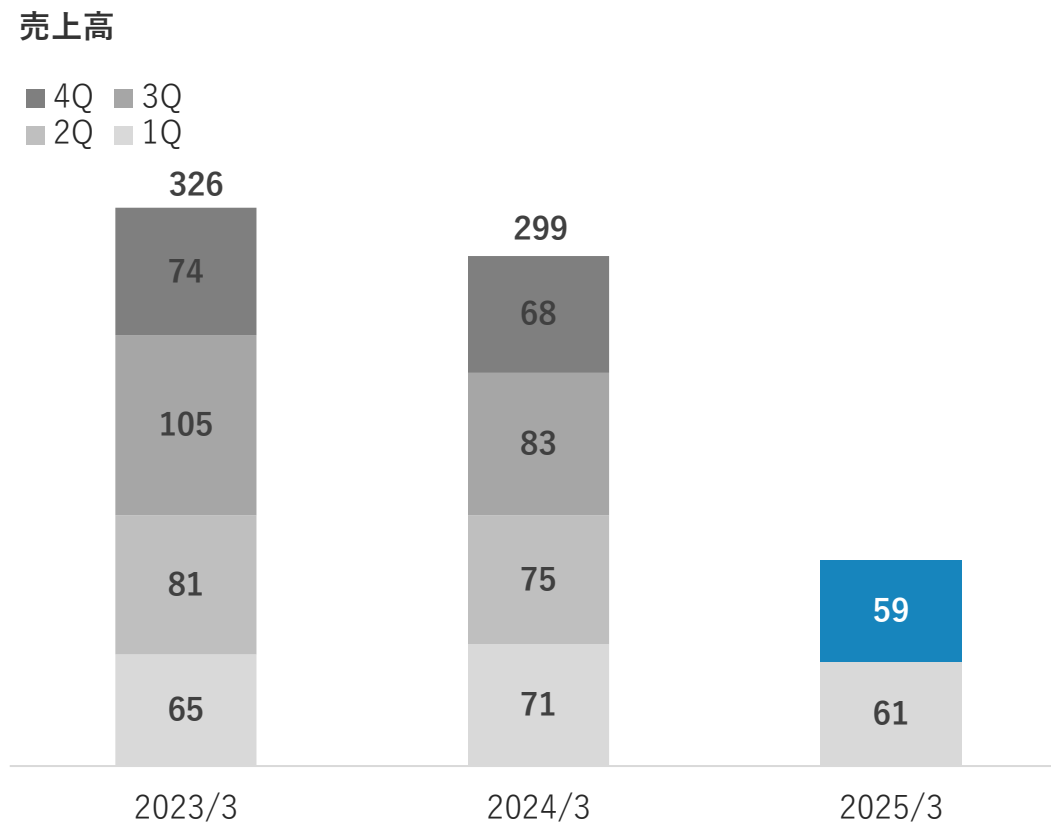
04-4

セグメント別概況 (その他事業－旅館事業－)



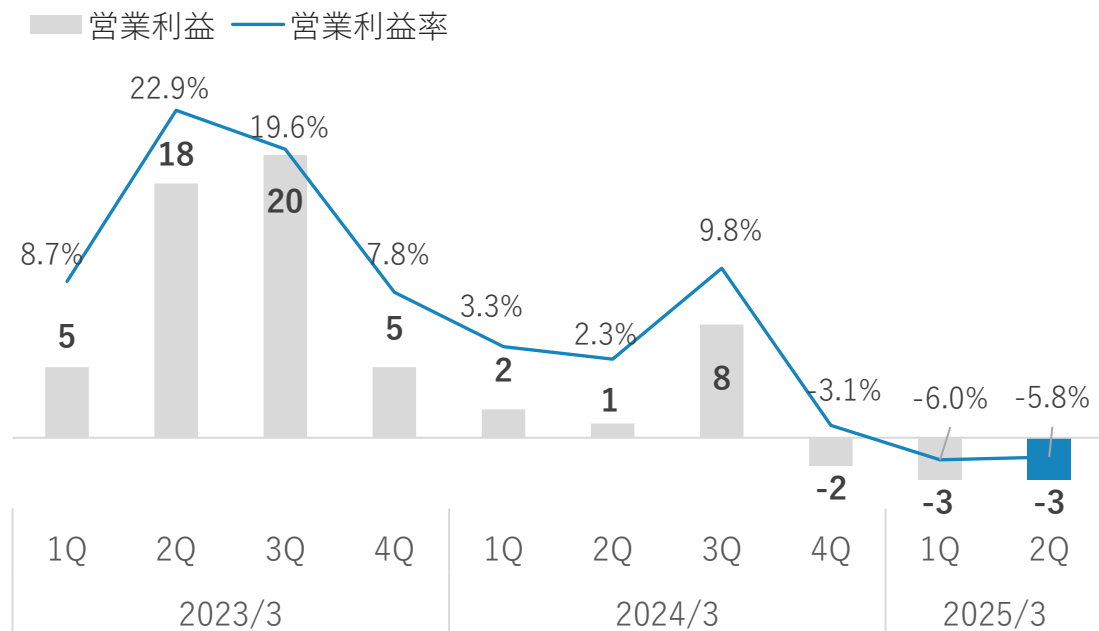
台風・猛暑の影響で売上高は前期同Qに比し減収

- 物価高騰、経済環境の不安定さに加えて、台風・猛暑の影響により、予約数低調が続く厳しい環境が継続
- リピート客の再来が堅調に推移し、収益環境を下支え
- 行楽シーズンに向け、料金見直しや予約ページのリニューアルを実施し、新規顧客獲得増加を図るとともに、リピート客向けサービス拡充でさらなるリピート率向上を目指す

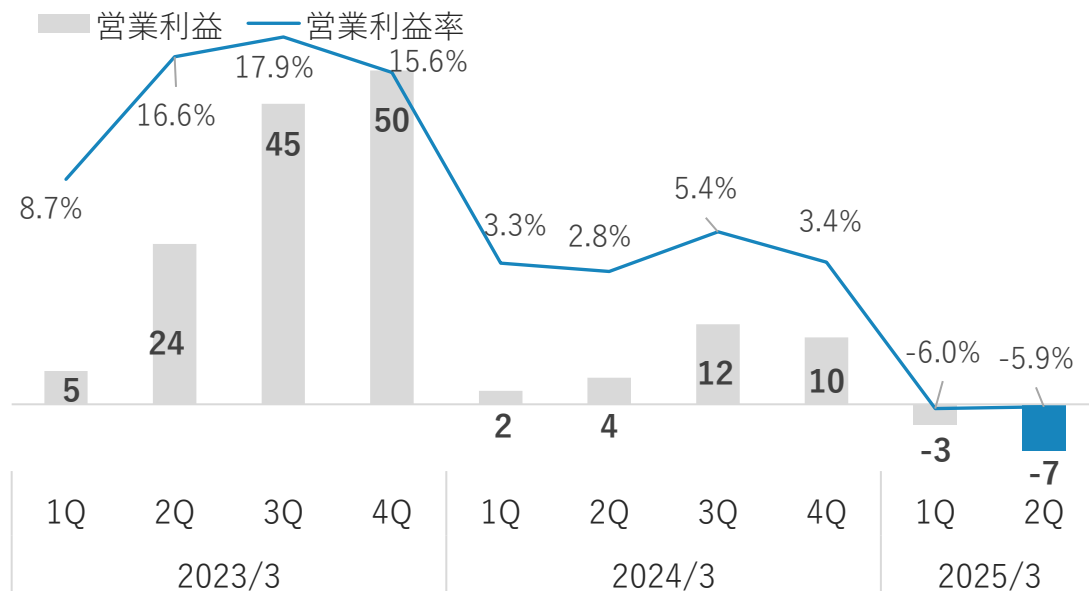


前期同Qに比し減益、行楽シーズンに向けて各種施策推進

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 前期に続き 2Qは台風・猛暑の影響で厳しい収益環境が継続
- 新規顧客向け及びリピート客向け施策推進し、予約数・客単価改善を目指す
- 価格プラン見直しによる収益確保に加え、コスト見直しによる販管費の削減に努める

改修工事を進め、収益性・顧客満足度の向上を推進



露天風呂付きの客室を増室

人気の高い、露天風呂付きの客室を増室
客単価の向上により更なる収益性の向上を期待



ドッグランをリニューアルし 顧客満足度の向上を図る

屋内・屋外ドッグランの整備・拡張を進め、
利便性を高める事により、顧客満足度の向上を推進



05

参考資料



商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	412名（連結 2024年9月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 堀 礼一郎 取締役 CFO 管理本部長 五十嵐 英 取締役 管理本部副本部長 富山 理布 取締役 経営戦略本部長 白鳥 俊昭 取締役（社外） 丸山 一郎 取締役（社外） 黒部 得善 取締役（社外） 後藤田 翔 取締役（社外） 中川 英之 常勤監査役 内藤 城次郎 監査役（社外） 上林 三子雄 監査役（社外） 西田 史朗 補欠監査役（社外） 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業（ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバン（現 連結子会社）を買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
	2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収

Business Domain

DXを次のステージへ

先進的なサービスを有するビジネスが集結

AKIBAホールディングスグループは多様なカテゴリーで社会全体のDX推進に取り組み発展させていきます。

